

4 かんしょ

(1) 作付面積

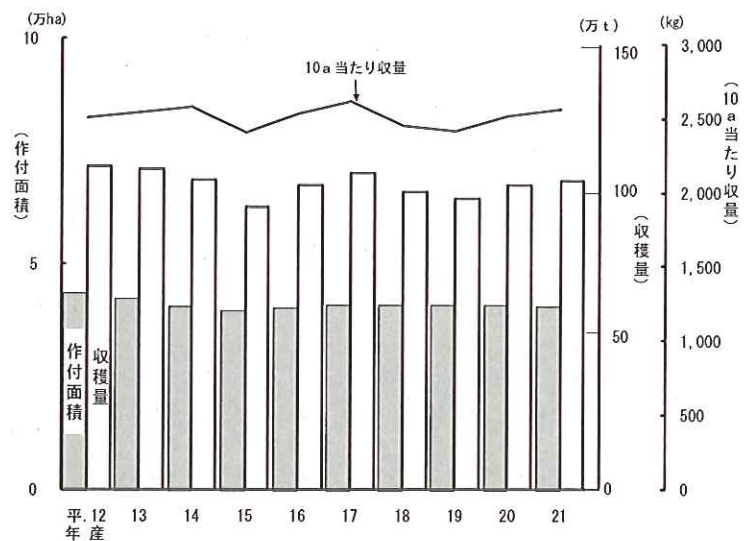
平成21年産かんしょの作付面積は4万500haで、前年産並みであった。(表4、図4)

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は2,530kgで、前年産に比べて2%上回った。

これは、鹿児島県、茨城県等でおおむね天候に恵まれ、生育が良好であったためである。(表4、図4)

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)



(3) 収穫量

収穫量は102万6,000tで、前年産に比べて1万5,000t(1%)増加した。

これは、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。(表4、図4)

表4 平成21年産かんしょの作付面積、10a当たり収量及び収穫量(全国)

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比	%	kg	
全 主 産 県 計	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	40 500	2 530	1 026 000	△ 200	100	102	15 000	101	101	2 500	
	33 100	2 720	900 100	0	100	102	15 700	102	101	2 680	
うち	茨城	6 510	2 730	177 700	80	101	105	9 600	106	106	2 580
	千葉	4 790	2 540	121 700	△ 130	97	100	△ 3 800	97	102	2 490
	静岡	876	1 630	14 300	△ 13	99	80	△ 3 900	79	80	2 050
	愛知	498	1 530	7 640	△ 30	94	94	△ 960	89	87	1 750
	徳島	1 210	2 620	31 700	△ 10	99	94	△ 2 500	93	111	2 360
	長崎	532	1 770	9 420	△ 18	97	104	10	100	96	1 840
	熊本	1 240	2 330	28 900	10	101	97	△ 600	98	101	2 310
	宮崎	3 260	2 840	92 600	△ 80	98	105	2 100	102	110	2 590
鹿児島	14 200	2 930	416 100	200	101	102	15 700	104	99	2 960	

注：1 かんしょの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成21年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計したものである。

2 主産県とは、全国のかんしょ作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

5 飼料作物

(1) 牧草

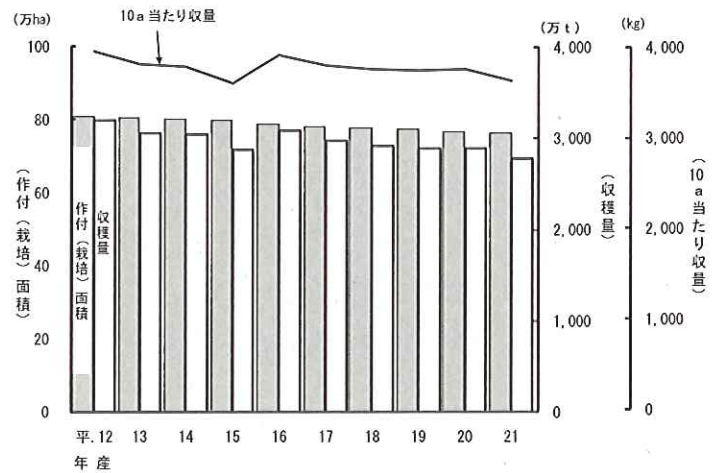
ア 作付(栽培)面積

平成21年産牧草の作付(栽培)面積は76万4,100haで、前年産に比べて4,900ha(1%)減少した。

これは、主に北海道において、青刈りとうもろこしへの転換が進んだためである。

(表5-1、図5-1)

図5-1 牧草の作付(栽培)面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)



イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,630kgで、前年産に比べて3%下回った。

これは、北海道における6月中旬及び7月中下旬の低温、日照不足並びに多雨の影響等による。

(表5-1、図5-1)

ウ 収穫量

収穫量は2,772万6,000tで、前年産に比べて107万9,000t(4%)減少した。

これは、作付(栽培)面積が減少したことに加えて、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

(表5-1、図5-1)

表5-1 平成21年産牧草の作付(栽培)面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付(栽培)面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考)	
				作付(栽培)面積		10a 当たり 収 量	収 穫 量		10a 当たり 平均収量 対 比	10a 当たり 平均収量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
全 国	764 100	3 630	27 726 000	△ 4 900	99	97	△ 1 079 000	96	97	3 760
主 産 県 計	763 800	3 630	27 719 000	△ 5 000	99	97	△ 1 079 000	96	97	3 760
うち 北 海 道	555 300	3 280	18 214 000	△ 2 700	100	98	△ 535 000	97	97	3 390

注：1 飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成21年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は主産県調査結果と主産県以外の推計値を合計したものである(以下表5-2及び表5-3について同じ。)

2 主産県とは、全国の作付(栽培)面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び全国飼料増産行動会議における飼料増産重点地区が設定されている都道府県である。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

平成21年産青刈りとうもろこしの作付面積は9万2,300haで、前年産に比べて1,500ha(2%)増加した。

これは、北海道において、高栄養飼料作物としての作付けが増加したためである。

(表5-2、図5-2)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,030kgで、前年産に比べて7%下回った。

これは、北海道における6月中旬及び7月中下旬の低温、日照不足並びに多雨の影響等による。(表5-2、図5-2)

ウ 収穫量

収穫量は464万5,000tで、前年産に比べて28万8,000t(6%)減少した。

これは、作付面積は増加したものの、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

(表5-2、図5-2)

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)

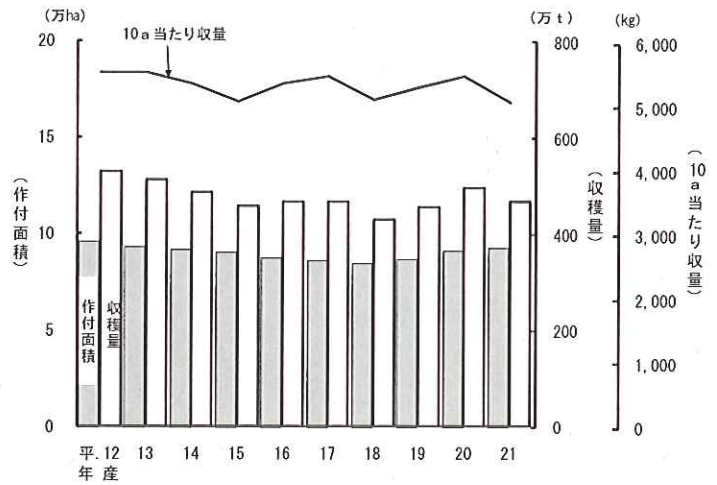


表5-2 平成21年産青刈りとうもろこしの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収 穫 量		10a 当たり 平均収量 対 比	10a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	92 300	5 030	4 645 000	1 500	102	93	△ 288 000	94	95	5 300	
主 産 県 計	92 200	5 030	4 641 000	1 500	102	93	△ 287 000	94	95	5 300	
うち 北海道	45 400	4 850	2 202 000	2 100	105	88	△ 184 000	92	91	5 320	

(3) ソルゴー

ア 作付面積

平成21年産ソルゴーの作付面積は1万8,700haで、前年産に比べて100ha(1%)減少した。(表5-3、図5-3)

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,840kgで、前年産に比べて5%下回った。

これは、九州北部を中心に、7月中下旬の日照不足及び長雨により生育が抑制されたこと等による。

(表5-3、図5-3)

ウ 収穫量

収穫量は109万2,000tで、前年産に比べて5万8,000t(5%)減少した。

これは、作付面積が減少したことに加えて、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

(表5-3、図5-3)

図5-3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)

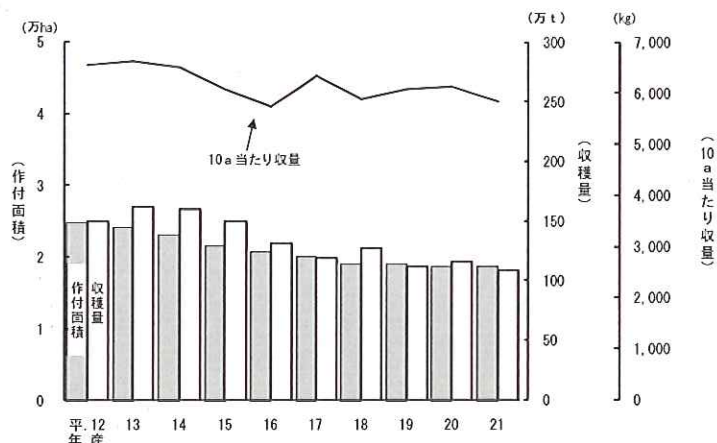


表5-3 平成21年産ソルゴーの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作付面積		10a 当たり 収 量	収 穫 量		10a 当たり 平均収量 対 比	10a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
主 産 県 計	18 700	5 840	1 092 000	△ 100	99	95	△ 58 000	95	95	6 130	
う ち											
長 崎	2 300	5 620	129 200	△ 80	97	94	△ 13 600	90	94	6 000	
熊 本	1 420	5 900	83 800	40	103	98	1 100	101	95	6 190	
大 分	1 070	6 120	65 500	0	100	90	△ 7 000	90	87	7 040	
宮 崎	4 310	6 220	268 200	10	100	100	700	100	98	6 370	
鹿 児 島	2 450	7 650	187 400	△ 50	98	99	△ 5 600	97	105	7 290	

6 工芸農作物

(1) 茶（全国）

ア 栽培面積

平成21年産茶の栽培面積は4万7,300haで、前年産に比べて700ha（1%）減少した。

（表6-1）

表6-1 茶の栽培面積（全国）

区 分	栽 培 面 積		単 位 : ha
		専 用 茶 園	
平. 21年	47 300	46 100	
20	48 000	46 700	
前年対比 (%)	99	99	

イ 摘採面積

全国の茶の摘採実面積は4万1,900haであった。

なお、摘採延べ面積は9万700haであった。（表6-2）

ウ 生葉収穫量

全国の茶の生葉収穫量は39万8,200tであった。（表6-2）

エ 荒茶生産量

全国の荒茶生産量は8万6,000tで、前年産に比べて9,500t（10%）減少した。

これは、静岡県等において品質を重視した早摘みが行われたことや、一部の県における低温の影響等により10a当たり生葉収量が低下したこと等による。

府県別にみると、静岡県が3万5,800t（荒茶生産量の42%）、次いで鹿児島県が2万3,400t（同27%）、三重県が6,510t（同8%）となっている。（表6-2、図6-1）

図6-1 荒茶生産量（主産県）

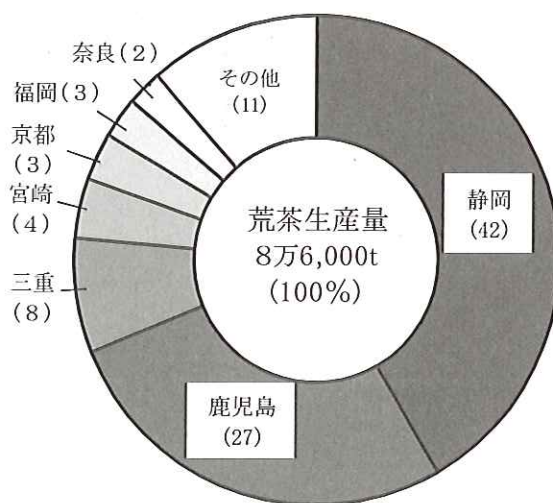


表6-2 摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（全国）

区 分	摘 採 面 積		10 a 当 たり 生 葉 収 量			生 葉 収 穫 量			荒 茶 生 産 量		
	実 面 積	延 べ 面 積	一 番 茶		二 番 茶	一 番 茶		二 番 茶	一 番 茶		二 番 茶
			kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	
平. 21年産	41 900	90 700	950	443	456	398 200	184 600	124 100	86 000	38 300	25 800
20	95 500
前年産対比 (%)	90

注：1 平成21年産については、全国を対象に調査を実施した。

2 摘採面積、10a当たり生葉収量及び生葉収穫量については、主産県調査であった20年産において全国値を推計していないため、20年産値及び前年産対比を「…」とした。

(2) てんさい

ア 作付面積

平成21年産てんさいの作付面積は6万4,500haで、前年産に比べて1,500ha（2%）減少した。これは、野菜、青刈りとうもろこし等への転換等があったことによる。（表6-3、図6-2）

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,660kgで、前年産に比べて12%下回った。

これは、6月中旬及び7月中下旬における低温、日照不足及び多雨により生育が抑制され、道内各地で湿害が発生したためである。（表6-3）

ウ 収穫量

収穫量は364万9,000tで、前年産に比べて59万9,000t（14%）減少した。

これは、作付面積が減少したことに加えて、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。（表6-3、図6-2）

図6-2 てんさいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移

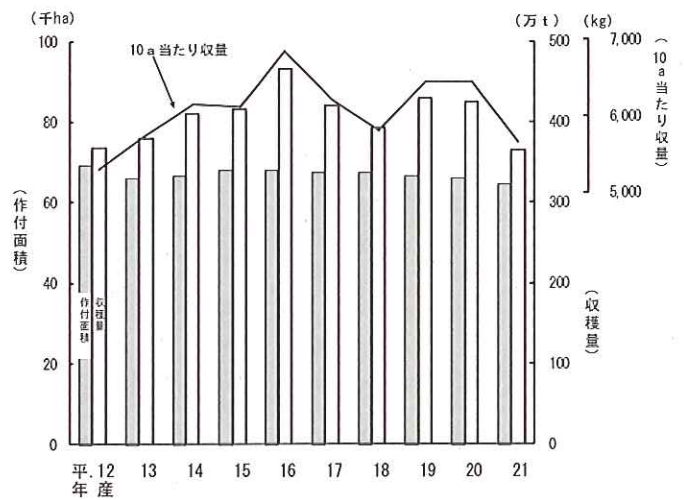


表6-3 てんさいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10a当たり 収量	収穫量		10a当たり 平均収量 対比	10a当たり 平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
北海道	ha 64 500	kg 5 660	t 3 649 000	ha △ 1 500	% 98	% 88	t △ 599 000	% 86	% 90	kg 6 280

注：調査は、北海道を対象に行っている。

(3) さとうきび

ア 収穫面積

平成21年産さとうきびの収穫面積は2万3,000haで、前年産に比べて800ha（4%）増加した。これは、2年1作の夏植えから、1年1作の春植え及び株出しへの移行が進んだためである。（表6-4、図6-3）

表6-4 さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	栽培面積	収 穫 面 積				10 a 当 たり 収 量			
		計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
全 国 平.21	31 400	23 000	7 370	3 980	11 700	6 590	8 670	5 380	5 650
20	30 900	22 200	7 450	3 650	11 100	7 200	8 120	6 670	6 750
前年産との比較 (%)	102	104	99	109	105	92	107	81	84
鹿 児 島	12 300	10 300	1 620	2 290	6 380	6 160	7 930	5 720	5 880
前年産との比較 (%)	103	105	96	106	108	84	87	80	86
沖 縄	19 200	12 800	5 750	1 690	5 320	6 900	8 890	4 920	5 390
前年産との比較 (%)	101	103	100	113	103	97	114	83	81

栽培、収穫面積：ha
単位
10a当たり収量：kg
収穫量：t

区 分	収 穫 量			
	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
全 国 平.21	1 515 000	639 300	214 100	661 600
20	1 598 000	605 300	243 500	749 200
前年産との比較 (%)	95	106	88	88
鹿 児 島	634 600	128 500	131 000	375 100
前年産との比較 (%)	89	83	85	93
沖 縄	880 300	510 800	83 100	286 500
前年産との比較 (%)	100	113	94	83

注：調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は6,590kgで、作柄の良かった前年産に比べて8%下回った。

これは、台風第18号及び第20号による被害や、干ばつ等の影響があったためである。

（表6-4）

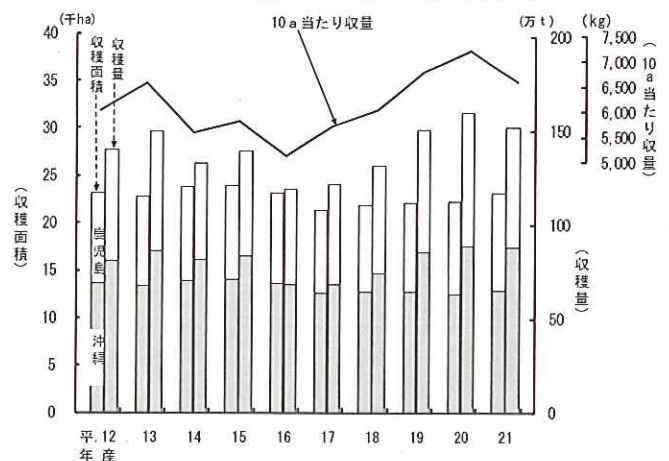
ウ 収穫量

収穫量は151万5,000tで、前年産に比べて8万3,000t（5%）減少した。

これは、収穫面積は増加したものの、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

（表6-4、図6-3）

図6-3 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移



(4) こんにゃくいも（全国）

ア 栽培面積・収穫面積

全国の栽培面積は4,310haであった。

また、全国の収穫面積は2,450haであった。

（表6-5、図6-4）

表6-5 こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量（全国）

区 分	栽培面積	収穫面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 対 比				（ 参 考 ）	
					栽培面積	収穫面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	10a当たり 平均収量 対 比	10a当たり 平均収量
	ha	ha	kg	t	%	%	%	%	%	kg
全 国	4 310	2 450	2 730	66 900	…	…	…	…	…	…
主 産 県 計	3 700	2 150	2 920	62 700	99	103	110	113	108	2 700
栃 木	178	104	2 650	2 760	97	98	95	94	102	2 590
群 馬	3 520	2 050	2 920	59 900	99	104	110	114	108	2 700

注：1 こんにゃくいもの収穫量調査は主産県調査で3年周期で全国調査を実施しており、平成21年産については全国の都道府県を対象に調査を実施した。そのため、主産県調査であった20年産との前年産対比及び（参考）の全国値欄は「…」とした。

2 主産県とは、全国のこんにゃくいも収穫面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県である。

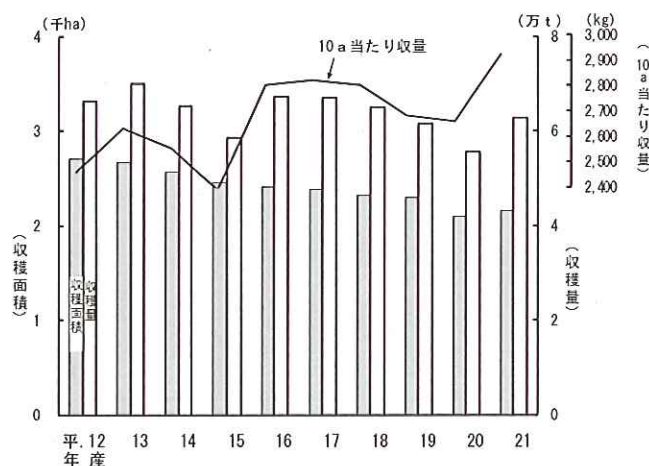
イ 10a当たり収量

全国の10a当たり収量は2,730kgであった。

このうち、群馬県においては、生育期間をとおしておおむね天候に恵まれ、気象被害や病害等も少なかったことから、前年産に比べて10%増加した。

（表6-5、図6-4）

図6-4 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）



ウ 収穫量

全国の収穫量は6万6,900tであった。

（表6-5、図6-4）

(5) い (主産県)

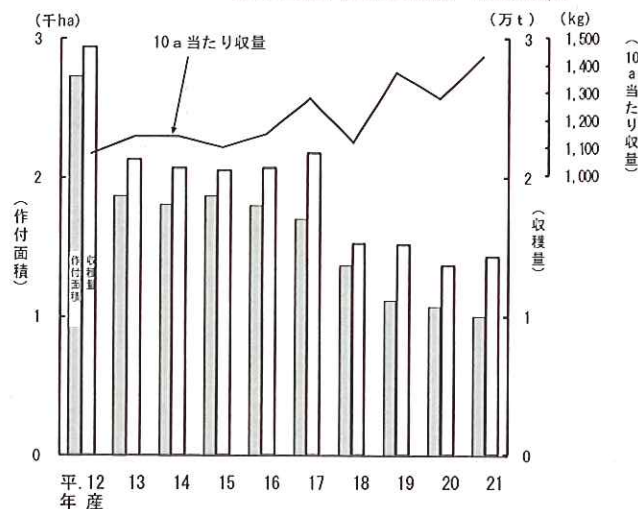
ア 作付面積

主産県 (福岡県及び熊本県) の平成21年産作付面積は1,000haで、前年産に比べて70ha (7%) 減少した。

これは、畳表の需要の減少等により、他作物への転換等があったためである。

(表6-6、図6-5)

図6-5 「い」の作付面積、収穫量及び10a当たり収量推移 (主産県)



イ 10a 当たり収量

主産県の10a 当たり収量は1,430kgで、前年産に比べて12%上回った。

これは、生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、茎数が多く、茎の伸長も良好であったことによる。(表6-6、図6-5)

ウ 収穫量

主産県の収穫量は1万4,300tで、前年産に比べて600t (4%) 増加した。

これは、作付面積が減少したものの、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

(表6-6、図6-5)

エ 畳表生産農家数及び畳表生産量

「い」の生産農家数は767戸で、前年産に比べて39戸 (5%) 減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は756戸で、前年に比べて32戸 (4%) 減少した。

なお、畳表生産農家の平成20年7月から21年6月までの畳表生産量は432万枚で、前年に比べて47万枚 (10%) 減少した。(表6-6)

表6-6 「い」の作付面積、10a 当たり収量及び収穫量 (主産県)

区分	「い」 生産 農家数	作付面積 ha	10a 当たり 収 量 kg	収 穫 量 t	前 年 産 と の 比 較					(参 考)		畳表生産 農 家 数	畳 表 生 産 量 千枚		
					作 付 面 積		10a 当たり 収 量	収 穫 量		10a 当たり 平均収量	10a 当たり 平均収量				
					対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比				
主産県計	767	1 000	1 430	14 300	△	70	93	112	600	104	119	1 200	756	4 320	
福 岡	32	23	1 350	311	△	3	88	106	△	20	94	113	1 200	32	162
熊 本	735	980	1 430	14 000	△	70	93	112	600	104	120	1 190	724	4 160	

注：主産県とは、福岡県及び熊本県である。